

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 29 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2012

課題番号：21320065

研究課題名（和文）東アジアにおける魯迅「阿Q」像の系譜

研究課題名（英文）The genealogy of Lu Xun's "Ah Q" image in the East Asia

研究代表者 藤井 省三 (FUJII SHOZO)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：70156818

研究成果の概要（和文）：アメリカ・韓国・シンガポール・台湾・中国・日本・香港（あいうえお順）の連携研究者・研究協力者合計 10 名の協力を得て、3 回の国際ワークショップおよび 1 回の国際シンポジウムを東京・ソウル・台北で開催し、1. 漱石→魯迅→太宰・大江・村上という日中間の「阿Q」伝播の様相、2. 魯迅→東アジア文学という戦前期「阿Q」像の伝播の様相、および 3. 魯迅→村上→東アジア文化という戦後期「阿Q」像の伝播の様相を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In cooperation with 10 associate and partner researchers from China, Japan, Korea, Singapore, Taiwan, and USA (in alphabetical order), I held 3 international workshops in Tokyo, Seoul, and Taipei, and I held one symposium in Tokyo to discuss about the genealogy of Lu Xun's "Ah Q" image in the East Asia, and get the clear understanding of the 3 aspects about it below.

1. The spread of "Ah Q's image among Japanese and Chinese authors as follows: NATSUME Soseki→Lu Xun→DAZAI Osamu→OE Kenzaburo→MURAKAMI Haruki.
2. The spread of "Ah Q's image from Lu Xun to East Asian authors before the World War II.
3. The spread of "Ah Q's image among East Asian authors after the World War II. as follows: Lu Xun→MURAKAMI Haruki→East Asian authors.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011 年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2012 年度	2,500,000	750,000	3,250,000
年度			
総計	7,900,000	2,370,000	10,270,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・中国文学

キーワード：東アジア比較文学、中国語圏文学、現代日本文学、魯迅、阿Q

1. 研究開始当初の背景

(1) 東アジアと魯迅

魯迅(1881-1936)は1902年に日本に留学し、7年もの長き青春の日々を過ごした。そして作家としてデビューするや日本の文化界でも注目を集め、現在では完訳の邦訳全集が刊行され、中学国語の全教科書にその作品が収録されている。日本人は魯迅をほとんど国民作家として受け入れてきたといえよう。このため魯迅と日本文学・文化との相互影響関係に関しては、日中両国でこれまでも広く深く研究が行われてきた。

また韓国・台湾・香港・シンガポールでも魯迅文学は熱心に読み継がれてきた。このため東アジア各地では魯迅受容史研究が盛行してきた。

このように魯迅は東アジア共通の文化遺産であり、モダン・クラシックではあるが、残念ながら現代東アジアの時空において魯迅文学をめぐる文化交流を立体的に解説する研究はほとんど行われていない。

(2) 日本・東アジアにおける魯迅および村上春樹に関する研究代表者による研究

1999年12月、本研究代表者が東京大学において開催した国際シンポジウム「東アジアにおける魯迅の受容」は、初めての東アジアと魯迅をめぐる文化交流の比較研究であった。同シンポは韓国・台湾・香港・シンガポール・オーストラリアから20名の研究者と日本滞在中の中国人研究者5名を招聘して、3日間にわたり各地における魯迅受容を比較研究した。その成果の一部は雑誌『アジア遊学』第25号特集「東アジアが読む魯迅」(研究代表者編、2001年3月号、勉誠出版)などで公開されている。また同シンポをきっかけに、東亜現代中国文学国際学会が発足し、ほぼ毎年各地で大会を開いて昨年までに8回を数え

ている。

また研究代表者は1980年代以来、魯迅と夏目漱石、太宰治、大江健三郎、東京外語支那語部グループなど日本との影響関係についても研究を積み重ね、その成果を著書『魯迅事典』(三省堂2002)などで公開している。

そのいっぽうで、研究代表者は10年前より東アジアと村上春樹(1949-)の相互影響関係をめぐる研究を開始していた。2005-2008年度には科研費助成等を得て、東大で国際ワークショップ(以下WSと略す)を2007年に、国際シンポを2006年(国際交流基金と共催)と2008年(東大中文開催、11月1日予定)に開催して、東アジア各地とアメリカの村上春樹研究者を招聘した。その成果の一部は研究代表者の著書『村上春樹のなかの中国』(朝日新聞社2007)、共編著『世界は村上春樹をどう読むか』(柴田元幸、沼野充義、四方田犬彦と共編、文藝春秋2006)、編著論文集『東アジアが読む村上春樹』(若草書房2009)として公開されている。

(3) 「阿Q」像を軸とする「20世紀東アジア文学史」構想の具体化

ところで魯迅が高く評価していたデンマーク人ブランドス(1842-1927)著の『19世紀文学主潮』(1890)とは、19世紀に国民国家体制を確立した仏英独の文学を中心とするヨーロッパ文学史であり、その刊行から約100年後にECが成立した。東アジアの20世紀とは一世紀遅れでヨーロッパ国民国家形成を追うものであり、研究代表者の東アジアにおける魯迅と村上をめぐる研究は、「20世紀東アジア文学主潮」を構想するものであった。

このような魯迅と村上を中心とする20世紀東アジア文学史構想の中から浮上してきた一つの系譜が、本研究「東アジアにおける

魯迅「阿Q」像の系譜」である。漱石『坊っちゃん』への共感から魯迅は中国国民性批判の小説「阿Q正伝」（1923）を書き上げて、国民国家形成のために自己否定すべき「阿Q」像を確立した。「阿Q」像とは次のように仮に定義できよう――通常の名前を持たず、家族から孤立し、旧来の共同体の人々の劣悪な性格を一身に集めて読者を失笑苦笑させたのち犠牲死して、旧共同体全体の倫理的欠陥を浮き彫りにし、読者を深い省察に導く人物。

「阿Q」像は日本では太宰治の戦後作品や大江健三郎の初期から晩期の作品、松本清張の「私小説」から推理小説への転向、そして1979年ポストモダン社会成立前夜にデビューする村上春樹に影響を与える（例えば『羊をめぐる冒険』の「鼠」や「駄目になった王国」の「Q氏」）など、戦後日本の国民的転換期に、自己否定されるべき各種の像へと展開した、というのが研究代表者の仮説であった。

漱石→魯迅→太宰・清張・大江・村上という日中間の「阿Q」像伝播のほかに、「阿Q」像の魯迅→東アジア文学という戦前期、そして魯迅→村上「Q氏」像→東アジア文化という90年代以後の同心円的波及も、本系譜研究の重要なテーマであった。

2. 研究の目的

本研究は研究期間内に以下の3点の「阿Q」伝播の様相を明らかにすることを目的としていた。

(1) 漱石→魯迅→太宰・清張・大江・村上という日中間の「阿Q」伝播の様相

(2) 魯迅→東アジア文学という戦前期「阿Q」像の伝播の様相

(3) 魯迅→村上→東アジア文化という戦後期「阿Q」像の伝播の様相

3. 研究の方法

(1) 漱石→魯迅→太宰・清張・大江・村上とい

う日中間の「阿Q」伝播の様相に関しては、主に平成21年度に島村輝・Faye Kleeman・王俊文・張明敏ら日米中台の現代日本文学専攻の研究協力者とともに各作家の作品を分析し、伝播の文化的社会的背景を調査し、WSを開催して論文を執筆した。

(2) 魯迅→東アジア文学という戦前期「阿Q」像の伝播の様相

主に平成22年度に鄧捷・任明信・張文薫・関詩珮ら中国・韓国・台湾・香港・シンガポールの現代中国文学・比較文化研究専攻の研究協力者とともに、魯迅「阿Q」像を受容した各地の作家の作品を分析し、伝播の文化的社会的背景を調査し、WSを開催して論文を執筆した。

(3) 魯迅→村上→東アジア文化という戦後期「阿Q」像の伝播の様相

主に平成23年度に三澤真美恵・鄧捷・金良守・任明信・関詩珮・張明敏ら日本・中国・韓国・香港・台湾の中国語圏映画・文学専攻の連携研究者・研究協力者とともに、魯迅「阿Q」像を受容した各地の映画・文学作品を分析し、伝播の文化的社会的背景を調査し、WSを開催して論文を執筆した。

(4)(1)1～(3)の各テーマの研究成果の統合

平成24年度に1～3の各テーマの研究に参加した各連携研究者・研究協力者とともに、東京大学において公開の国際シンポを開催して、広く各分野の研究者や市民からのご指教を仰いだ。成果の一部は日本及び東アジア各地の文芸誌学会誌にエッセイ・論文として発表しつつあるほか、総合的成果として論文集（中国語）刊行準備を進めている。

4. 研究成果

研究代表者は連携研究者・研究協力者と共に日本班、戦前期東アジア班、戦後期東アジア班の三研究班を組織した。各班の構成とその研究成果は以下の通りである。

(1) 日本班

① 構成：島村輝、日本、女子美術大学教授（研究協力者）／Kleeman, Faye、米国、Colorado

大学副教授（研究協力者）／張明敏、台湾、清雲科技大学兼任講師（研究協力者）／王俊文、中国、早稲田大学・非常勤講師（研究協力者）。

②研究成果：日本における「阿Q」像の展開に関する研究を担当し、太宰治、武田泰淳、松本清張、村上春樹らにおける「阿Q」像の受容とその展開を明らかにした。特に Faye KLEEMAN による太宰治『惜別』と魯迅との影響関係に関する本研究シンポでの報告はコメントーターの小川利康（早稲田大学教授）から高く評価された。また松本清張が「私小説」作家から推理小説作家へと転じて行く際の魯迅との影響関係および村上春樹の話題作『1Q84』と魯迅「阿Q正伝」との系譜的關係をめぐる研究代表者の研究は、2011年中国・紹興魯迅記念館および2012年北京・中国伝媒大学において開催された国際魯迅シンポで報告され、高く評価された。

(2) 戦前期東アジア班

①構成：鄧捷、中国、聖心女子大学・非常勤講師（研究協力者）／任明信、韓国、ソウル大学・専任講師（研究協力者）／張文薫、台湾、台湾大学・助理教授（研究協力者）／関詩珮、香港、シンガポール・南洋理工大学・助理教授（研究協力者）。

②研究成果：韓国・台湾・中国・香港の戦前期における「阿Q」像の受容と変容に関する研究を担当した。鄧捷による陶晶孫と魯迅及び革命文学との影響関係に関する本研究シンポでの報告は、コメントーターの林敏潔・南京師範大学教授（南京大学兼任教授）から高く評価された。

(3) 戦後期東アジア班

①構成：三澤真美恵、日本、日本大学・準教授（連携研究者）／鄧捷／金良守、韓国、東国大学副教授（研究協力者）／任明信／関詩珮／張明敏。

②研究成果：韓国・台湾・中国・香港の戦後期における魯迅「阿Q」と村上「Q氏」像の受容と変容に関する研究を担当した。本研究シンポ発表の張明敏による楊達（ヤン・クイ、ようき、一九〇五～八五）の「阿Q正伝」翻訳に関する研究、張文薫による台湾モダニズム作家郭松 fen（草冠+分+木）（1938～2005）における魯迅受容に関する研究、金良守による「在日ディアスポラ作家」金達寿の阿Q受容に関する研究が、コメントーターの伊藤徳也・東京大学教授から高く評価された。

以上の報告は2013年に東アジア各地の学会誌に発表されたのち、本研究報告論文集として中国語版を台湾大学台湾文学研究所が編集して刊行の予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計12件）

①藤井省三、魯迅戀愛小説における空白の意匠：「愛と死（原題：傷逝）」と森鴎外「舞姫」との比較研究、東方学、査読有、125輯、2013、1-20

②藤井省三、新ノーベル文学賞作家 莫言の人と文学、文學界、査読有、66巻6号、2012、238-251

③藤井省三、松本清張の私小説と魯迅「故郷」——「父系の指」から「張込み」への展開をめぐる、文學界、査読有、66巻12号、2012、270-277

④藤井省三、村上春樹《1Q84》中《阿Q正伝》的亡霊們、紹興文理学院学報、査読有、31巻5期、2011、8-12

⑤藤井省三、中国高度経済成長期の「人世」と「人性」を映し出す両面鏡——「東アジアと松本清張」論序説、松本清張研究、査読有、12巻、2011、76-91

⑥鄧捷、魯迅「野草」世界の象徴秩序、野草、査読有、87号、2011、17-32

⑦王俊文、武田泰淳と敗戦前後の上海、文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要、査読有、11号、2011、135-152

⑧藤井省三、魯迅的「孔乙己」与芥川龍之介的「毛利先生」——圍繞清末讀書人大正時期英語教師展開的回憶故事、2010年2月、上海魯迅研究、査読有、2010年春、2010、71-85

⑨三澤真美恵、シンガポール映画研究へのアプローチ、中国語中国文化、出版者：東京・日本大学大学院文学研究科中国学専攻、査読無し、第7号、2010、123-129

⑩藤井省三、現代シンガポール家族像における非婚とセックスレス——陳華彪小説集『スーパー・チェーン・ボーイの物語』と梁智強監督映画『私のお役所時代』をめぐる、中国語中国文化、出版者：日本大学文理学部中文科紀要、査読無し、7号、2010-3、183-193頁

⑪王俊文、武田泰淳における「阿Q」、東方学、査読有、第120輯、2010、86-104

⑫藤井省三、『1Q84』のなかの「阿Q」の影——魯迅と村上春樹、文學界、査読無し、63巻8号、2009、228-231

〔学会発表〕（計9件）

①藤井省三、魯迅戀愛小説中の留白匠意：《傷逝》与森鴎外《舞姫》的比較研究、国際魯迅研討会、2013年03月22日・2013

年 3 月 23 日、南京師範大学、中国

②藤井省三、Natsume Soseki 夏目漱石, Lu Xun 魯迅, and Murakami Haruki 村上春樹 : A Genealogy of the Ah Q 阿 Q Image in East Asian Literature、W L in T/東京世界文学会議 World Literature and Japanese Literature in the Era of Globalization、2013 年 3 月 3 日-2013 年 3 月 4 日、東京大学山上会館、日本

③藤井省三、村上春樹と中国：『ノルウェイの森』から『1 Q 8 4』まで、第 12 回桜美林大学・北京大学学術シンポジウム、2012 年 12 月 15 日、東京・桜美林大学多目的チャペル(桂冠堂)、日本

④藤井省三、松本清張(Seicho Matsumoto)の初期小説《父系之手指》与魯迅作品《故郷》：從貧困者“棄”郷的“私小説”到推理小説《埋伏》的展開、国際魯迅研究会第一屆學術論壇：北京論壇、2012 年 11 月 9 日-2012 年 11 月 10 日、北京・中国伝媒大学文學院、中国

⑤藤井省三、「Lexington の幽霊」におけるアジア戦争の記憶—村上春樹 “デタッチメント” 時代の終わりをめぐって、南開大学外国語学院日語文学科創立四十周年記念東アジア文学と文化の交流、2012 年 9 月 9 日-2012 年 9 月 10 日、天津・南開大学、中国

⑥藤井省三、村上春樹《1 Q 8 4》中《阿 Q 正伝》的亡霊們、紀念魯迅誕辰 130 周年暨“魯迅：經典与現実”国際學術研討会、2011 年 9 月 26 日、中国・紹興・咸亨大酒店、中国

⑦藤井省三、How Japanese Dialogue with Li Ang、Heidelberg lecture、2011 年 3 月 17 日、Institute of Chinese Studies / University of Heidelberg、ドイツ

⑧藤井省三、魯迅与日本文学：以跟夏目漱石、芥川龍之介、村上春樹的影響關係爲中心、東北師大静湖名家講壇、2009 年 9 月 9 日、長春市・東北師範大学、中国

⑨藤井省三、新加坡小説、電影中的非婚和無性--陳華彪小説《超級鉄鏈男的故事》与梁智強電影《我在政府部門的日子》的比較研究、Special Session: Popular Culture in Asia “Families in the Films of Asia” & “The Past and The Present Development of Singapore films”、2009 年 6 月 18 日、The 9th conference of Science Council of Asia、Grand Copthorne Waterfront Hotel, シンガポール

〔図書〕(計 6 件)

①劉孟達、杭州・西泠印社出版社、經典与現実：紀念魯迅誕辰 130 周年国際學術研討会論文集、2012、301-309

②菅野昭正、東京：平凡社、村上春樹の読みかた、2012、165-218

③江宝釵、台北・聯合文学出版社、不凋的花季 李昂国際學術研討会論文集、2012、54-78

④藤井省三、東京大学出版会、中国語圏文学史、2011、244

⑤三澤真美恵、岩波書店、「帝国」と「祖国」のはざま:植民地期台湾映画人の交渉と越境、2010、371

⑥藤井省三ほか、若草書房、1 Q 8 4 スタディーズ BOOK 1、2009、24-38

〔産業財産権〕
○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
藤井 省三 (FUJII SHOZO)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：70156818

(2) 研究分担者
()
研究者番号：

(3) 連携研究者
三澤真美恵 (MISAWA MAKIE)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：90386706